

新幹線逸脱防止対策の今後の整備計画について

- JR 東日本では、新幹線の地震対策として、地震時に早期に列車を止める対策、構造物等の耐震補強対策、列車の線路からの逸脱を防止する対策を柱として取り組んでいます。このうち、逸脱防止対策としては、すべての新幹線車両への L 型車両ガイドの設置が完了しており、現在はレール転倒防止装置の整備を進めています。
- レール転倒防止装置の今後の整備にあたっては、これまでスラブ軌道を対象に進めてきた対策をバラスト軌道にも拡大するほか、新たに優先施工区間を設定し早期に整備を実施します。

1 レール転倒防止装置の整備計画数量

※整備済延長は 2015 年度末時点 (単位: km)

| 線名 | 区間 | 軌道延長 | 計画延長 | | | 合計 |
|-------|---------|-------|-------|-----|------------------|-------|
| | | | スラブ軌道 | | バラスト軌道 【今回追加】 | |
| | | | うち整備済 | | | |
| 東北新幹線 | 東京～新青森 | 1,352 | 967 | 473 | 80 | 1,047 |
| 上越新幹線 | 大宮～新潟 | 539 | 484 | 103 | 23 | 507 |
| 北陸新幹線 | 高崎～上越妙高 | 352 | 103 | 103 | — | 103 |
| 合計 | | 2,243 | 1,554 | 679 | 103 | 1,657 |

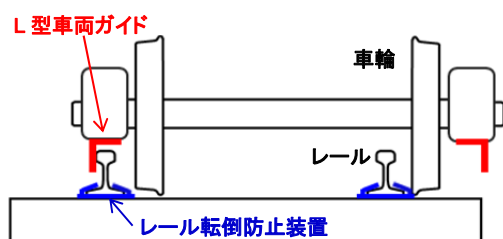
2 今回の追加内容

(1) バラスト軌道用レール転倒防止装置の導入

- ・ バラスト軌道用のレール転倒防止装置の開発が完了したため、2017 年度より新たに導入します。

(2) 優先施工区間の早期整備

- ・ 本整備計画数量については 2029 年度までに完了する予定ですが、今回、最新の活断層の知見に基づき優先施工区間（東北新幹線約 50 km、上越新幹線約 150 km）を設定し、2020 年度までに整備します。



※ L 型車両ガイドがレールに当たり、車輪が線路から逸脱することを防止する

レール転倒防止装置



スラブ軌道用【整備中】



バラスト軌道用【今後導入】